

東京北ロータリークラブ講演

東京北ロータリークラブ会長、三笠宮様、会員の皆様

皆さんのセルビアに対する知識と興味を広げられるであろう、私の国に関するお話をさせていただき、このすばらしい機会を与えていただき非常に光栄に思います。特に私の国をよく知る友人である和田吉民様には、皆さんの代表としてご招待いただきましたことを感謝いたします。

まず、日本で外交官として送られるのは特に光栄なことで、この美しい非日常的な国での生活は個人や家族にとっても喜びであります。私と私の家族は、独特のもてなしと日常的に仕事場や公の場所、どこでも触れることができる親切心に魅了されています。お世辞ではなく、ここでの滞在は非常に心地よく、日本の今、文化、そしてほかの魅力的な伝統の独自性について消えることのない知識を毎日得ることができます。

地理的にこれほどはなれた二つの国はぱっと見、国民同士が共通点を持たない、歴史の浅いものだと思うでしょう。ご存じない方々は驚かれるでしょうが、126年前、セルビアのミラン・オブレノヴィッチ王はセルビアが1878年、再びヨーロッパの独立国としてベルリン会議で認められたことを報告する書簡を日本の明治天皇に送りました。1882年の同じ手紙ではミラン・オブレノヴィッチ王は王位についたことを報告し、これを日本の君主に知らせました。明治天皇はセルビア君主に返答し、書かれた両方の出来事に対してお祝いを述べました。これによってセルビアと日本の関係が公的なものとなったとされています。この書簡交換の証拠となるオリジナルの手紙は日本国外務省の史料館にあります。興味のある方はどなたでもこの拡大コピーを東京のセルビア大使館のゲストホールでご覧いただけます。また、昨年12月23日の天皇誕生日にはベオグラードの日本大使館でわが二国間の関係125周年を記念した郵便切手が発表されました。

同様に知っておきたいのは明治天皇がミラン・オブレノヴィッチの息子であるアレクサンダル一世とも書簡交換をしており、20世紀始めのセルビア君主、ペタル一世カラジョルジェヴィッチ王は大正天皇と書簡交換をしていました。

ユーゴスラヴィアのアレクサンダル一世カラジョルジェヴィッチ王は昭和天皇と文書交換を行い、特に興味深いのは王とルーマニア王女との結婚式には日本天皇から特使が送られ、参列していたという事実です。この同じアレクサンダル王は1931年にベオグラードの城に日本の高松宮親王ご夫妻を迎えています。これに関してはセルビア史料館に正確な資料が残っています。当時親王ご夫妻は写真に写っているカレメグダンを散策されました。

これ以外にも数々の出来事が二国間の高いレベルでの交流を具体的に証明しています。もうひとつ付け加えたいのは日本政府が既に 1928 年には在セルビア名誉領事としてミルティン・スタノイエヴィッチを任命し、その翌年には金鳥で知られる大阪の大日本除虫菊株式会社の上山英一郎社長が我が国の在日名誉領事に任命されました。

つまりこれらの歴史的出来事はセルビアと日本の関係の豊かさを物語っており、第二次世界大戦以降は当時のユーゴスラヴィアと日本の間で様々な分野における多方面の協力が始まりました。24 の国際契約締結は相互関係のレベルと多様性を物語っています。今日のセルビアはご存知の通り、旧ユーゴスラヴィアの国際的継承国であり、以前締結された契約は現在も有効です。

日本は近年、特に 2000 年以降、その支援によってセルビア政府と国民の中で特別な意味を持つようになりました。日本は無償支援の多さでは 1 位であり、特に健康、教育、交通網改善における支援は注目を集めています。日本企業が支社を開設し始め、特に言及すべきは日本たばこ産業がセルビアの新工場に 1 億ドルを超える投資をしたことです。同じく重要なのがこの地域を担当する JICA オフィスがウィーンからベオグラードに移され、現在日本政府の専門家が派遣されています。

多くの日本企業が、特に鉱業、エネルギー、産業、その他の分野でのセルビアへの投資に興味を示しています。自然環境保護における国際問題での日本の主導的立場もあり、最近では日本はセルビアと自然環境を発展させる提案を進めることに興味を示しています。

二国間では多くのポジティブな出来事が起きており、このような形ですべての要素を表現するのは難しいですが、確かなことがひとつあります。私たちの関係が友好と相互利益の発展への良い例であることです。

皆さん、

今日のセルビアは西バルカンに位置し、その領土は約 88,000 平方 km です。ハンガリー、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロ、マケドニア、アルバニア、ブルガリア、ルーマニアの 8 つの国と国境を接していて、人口は 900 万人以上います。首都のベオグラードはドナウ河とサワ河の合流地点にあり、どちらの河も国境を越えますが、中でもドナウ河はヨーロッパで二番目に大きな河です。大陸性気候で、日本と同様に四季の移り変わりがあります。冬は非常に寒くなることもあり、セルビアの一部地域では気温がマイナス 35 度になることもあります。最近では世界の他の地域同様に夏はさらに暑く、まれにですが温度計が 40 度を超えることもあります。

セルビアは多民族国家です。人口の約 20%がセルビア人ではなく、ボシュニャック、ハンガリー、クロアチア、アルバニア、スロヴァキア、その他の人々です。国民の大多数は正教徒ですが、カトリック、イスラム、ユダヤ教の人々もいます。

セルビア人と最初のセルビア国は、10 世紀中頃のヴィザンチン皇帝コンスタンティノス 7 世ポリフュロゲネトスの『De administrando imperio—帝国の統治について』の一部に出てきます。セルビア国は王国として構成され、初代の王が王位についたのは 1217 年です。14 世紀中頃には当時、ヨーロッパのその地域でもっとも大きな勢力を持っていた皇帝ドゥシャン・ネマニッチがセルビア人の主導でした。中世セルビア国は 15 世紀、完全にオスマン・トルコ勢力の手に落ち、19 世紀はじめまで支配下に置かれました。

最近のセルビアはヨーロッパでもっとも高い経済成長率を記録しており、去年は 7.3% でした。セルビアのインフレ率は低く、輸出入率は急速に上昇しています。2005 年からの繰越予算があり、世界銀行の評価では人口一人当たりの GNP は 4500 ドルに近づいています。現在セルビアでは、フランス、イタリア、ドイツ、オーストリア、ギリシャ、キプロス、その他の数多くの有名な外資系銀行が営業しています。国営企業の民営化は今年完了する予定です。海外直接投資は急速に増えており、ここ数年で 10 億ドルを超えています。セルビアは外国投資家への特別な便宜を導入していて、法人税はたったの 10% で、労働力も安価です。特にセルビアが興味深いとされる事実が、国民の多くが英語を話し、平均的な国民が非常に高い教育レベルを持っていることです。

セルビアは CEFTA—中欧自由貿易協定の会員で、ヨーロッパで唯一ロシアとの自由貿易協定を結んでいる国です。セルビアは将来的な農業発展に向いており、広大な耕作に適した土地があり、食物と食料品の輸出国でもあります。外国投資家にとってセルビアは鉱業分野においても興味深く、先日 JICA が MINDECO とともに重要な研究をし、先進国である投資国候補の興味を引き付けました。セルビアはエネルギー分野でも水力の発展性や多くの石炭埋蔵量、風力など他の未使用エネルギー源でも魅力的です。セルビアはかつて非常に産業発展していたので、今日また多くの方面から車両部品、電気機器、航空産業からも生産復興に関する連絡が来ています。

セルビアをもっとも特徴付けるのはその特別な地理的条件かもしれません。ヨーロッパの中心から中東への最短ルートはセルビアを通っています。そのため、私たちが良く『交差点に建てられた家』と呼んでおり、これが非常に多く訪問される理由です。現在では旅行者や観光客、過去には侵略者がやって来ていました。しかし外国人たちは多くの自然美を目的として、また最近ではルーラルツーリズム、農村観光のためにやって来ます。セルビアに滞在されたときにはぜひ、よく家庭でも作られている多くの郷土料理と飲み物を試してみたいと思います。

セルビアは対外政策において、特にここ数年は EU との関係強化に最大の力を注いできました。内外政策のほとんどは有効な欧州統合基準に融合するために取られました。並んで、そう遠くない過去の悲惨な経験から、セルビアは特に隣国関係発展に力を入れていました。同時にセルビアは海を越えたすべての大陸の国々との関係維持発展を続けてきました。最近では同じように、セルビアは黒海経済協力機構－BSEC の会員として黒海地域での協力発展を進めています。セルビアは国連機関の設立メンバーであり、OSCE、欧州委員会など多くの国際政治、経済、文化機関の会員です。

皆様、

平和的な発展をする中でセルビアはつい最近、国際法と主権国家間の品行道徳を手ひどく無視した行為に困惑させられています。皆様も既にセルビア南部の、分離主義的アルバニア少数民族によるコソボ・メトヒヤの一方的な独立宣言についてはご存知だと思います。私たちはこの、国際社会の興味を中心である危機の規模が、当事者であるセルビアの、そして自治州に住むアルバニア少数民族の要求や利益をも超えたところにあると認識しています。セルビア内のアルバニア少数民族の望みをかなえる必要があるという通常の説明とはまったく違うことが行われています。これは実験です。一方的で強引な決定を行使する国連の存続力と抵抗力が試されているのです。国際法の抵抗力と国連決議の存続力が試されています。今までの国際組織と、第二次大戦以降苦勞して一生懸命作り上げた構造が試されています。すべての国々が義務においても権利においても平等であると宣言された、社会的価値観が大きな試練に直面しています。コソボ・メトヒヤに関して言うと、この分離の試みで、勢力の強さが主張の強さよりも大事だという新たな『ルール』を作ることになるのかが、本題になっています。

この状況と新たな危機に対してはこのような見方をするしかありません。セルビア人は心からコソボ・メトヒヤのアルバニア人と静かに暮らしたいために、今まで誰も提案したことのないものを提案したということを皆様にも知っていただきたいと思います。アルバニア人に対して国旗、国家、紋章の権利を与えるというのが、ベオグラードがアルバニア少数民族にした提案であり、このようなレベルの自治権は政治の歴史で記されたことがありません。

しかし残念ながらアルバニア人は国際保護領と条件付独立と呼ばれる、永続的な深い依存性を持つ形を選択しました。おそらく説得されたのでしょう。私たちは心から、アルバニア少数民族の代表がセルビア政府と、セルビア内で共存するための真の解決を得ることこそ、彼らの利益であることに気づく日が来ることを願っています。

コソボ・メトヒヤについてどのような感情がセルビア人の生活を乱しているのかを完全に理解してもらうため、架空ではありますがある状況を例として思い浮かべてください。ある時、日本の隣国のひとつが弾圧的な独裁政権の国だとします。

その国民の多くがその国から逃げ始め、それに成功します。そして一部がゆっくと、たとえば京都に徐々に移住を始めます。日本人はもてなしの心と同情心で知られているので、その外国人たちの移住を受け入れます。一定期間が過ぎ、その少数民族の代表が自国語を使い、自分たちのプログラムを使う学校を要求します。それから別の大学、研究所、自治権と要求が続きます。そしてある日、京都内の領土に自分たちの国家を作りたいという日が来るのです。日本人はどのような反応をするのでしょうか？

アルバニアでは40年前、毛沢東の頃の中国としか友好関係を持たなかった、類を見ない外国嫌いのエンヴェル・ホッジヤが政権を取っていたことを考えに入れてください。20世紀後半のそのような国から、多くのアルバニア人がコソボ・メトヒヤに避難場所を見つけ、地元セルビア人のもてなしに出会ったのです。

そしてもうひとつ。コソボ・メトヒヤにある数多くの教会は、中世の最初のセルビア国の頃に作られました。しかしアルバニア少数民族の歴史的な文化遺跡はただのひとつも存在しません。オスマン・トルコ時代のトルコが作ったものは存在します。これを説明するのは、誰も自分自身の一部を誰かに与えることはできないということを理解してもらうためです。それは不自然なことだと思いますし、過去は忘れて未来を見なさいという、西欧の一部の国からよく言われる意見は成り立たないのです。そう言っている本人たちは絶対に、そのような意見を実行することもできないでしょう。

今日の私が話が必要以上に真面目で、厳しいものとして終わるのは望むところではありません。実際訪問して頂ければ、皆さんが今持っているセルビアのイメージとはまったく違う印象を得られるはずです。親切なもてなし、忘れがたい雰囲気、美味しい食事と美味なるお酒を満喫していただけることは確実です。セルビアを散策したことのある私の日本の友人の多くは、奥様がそばにいないときにここだけの話として、セルビアの女性以上に美しい女性はいないとコメントしています。旅行をするかどうかお決めになるときに、それも考えに入れておいてください。

ご清聴ありがとうございました。